

2022年度

大学院新潟生命歯学研究科入学要項

日本歯科大学

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

- 1) 歯科医学の進展と人類の健康・医療・福祉の向上に強い意欲を持つ者
- 2) 生命歯学に関する基盤研究及び先進的研究に取り組む強い意欲と能力を持つ者
- 3) 高度な生命科学者、優れた教育者、専門的な臨床医として、国際的および学際的視点に立脚し、生命歯学に関する豊かな学識と先端的な技術を身につけようという強い意欲と能力を持つ者

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

本学大学院新潟生命歯学研究科は、教育目標達成のために、それぞれに6専攻主科目からなる基礎科学系専攻、応用科学系専攻および臨床科学系専攻を置いている。専攻主科目に係わらず、全員が高度な研究実施と論文作成のための基本的な考え方および基礎的知識・手技を習得する共通授業を設けている。また、研究レベル、先端的内容を盛り込んだ臨床症例から、近い将来における臨床のあり方を学ぶ共通授業も設けてある。なお、専攻主科目ごとに選択可能な科目を決めているが、状況に応じた柔軟性を確保するために、選択科目は全ての科目から選択可能とし、生命歯学に関する広範囲な知識を自力的に学習できるようにしている。

ディプロマポリシー（学位授与に関する方針）

本学大学院新潟生命歯学研究科に必要な年限在学して所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、その成果を学位論文としてとりまとめ、学位論文の審査及び最終試験に合格した次の者に博士（歯学）の学位を授与する。

- 1) 専攻分野に新しい知見を与え、国際誌あるいは専門学術雑誌に掲載されるような成果をあげることにより、歯科医学の進展に寄与したと認められる者
- 2) 高度な生命科学者、優れた教育者、あるいは専門的な臨床医となるにふさわしい、生命歯学に関する豊かな学識と先端的な技術を身につけたと認められる者

1) 目的

日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科は、歯科医学の専攻分野において、研究者として自立して研究活動を行い、専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力と、その基盤となる豊かな学識、および優れた人間性を兼ね備えた研究者を育成し、もって広範な歯科医学の進展と、医療福祉の向上に寄与することを目的とする。

2) 募集人員

博士課程 18名

専攻	系	分野	専攻主科目	担当教授
生命歯学専攻	基礎科学系	顎口腔形態学	硬組織粘膜比較形態学	影山幾男
			形態分析化学	辻村麻衣子
		顎口腔機能学	咀嚼分泌神経学	佐藤義英
			唾液唾液腺機能学	森田貴雄
		顎口腔感染環境保健学	口腔感染免疫学	葛城啓彰
			口腔環境保健学	小松崎明
	応用科学系	顎口腔材料咬合学	口腔材料開発工学	大熊一夫
			*機能性咬合治療学	
		顎口腔病態診断学	*放射線定量診断学	小椋一朗
			病態組織機構学	岡田康男
		顎口腔生体反応学	硬組織唾液腺薬物反応学	仲村健二郎
			*口腔全身機能管理学	藤井一維
	臨床科学系	硬組織歯周治療学	*硬組織機能治療学	新海航一
			*歯周機能治療学	佐藤聡
		顎口腔成長発達学	*小児口腔行動科学	黒木淳子
*咬合形態機能矯正学			遠藤敏哉	
顎口腔全身病学	*顎口腔全身関連治療学	田中彰		
	*全身関連臨床検査学	大越章吾		

(* : 歯科臨床系)

3) 修業年限

博士課程 標準修業年限4年

4) 課程修了の要件と学位授与

- ① 本大学院に3年以上在学し、在学期間中に定められた授業科目を履修して30単位以上を修得し、さらに必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査および最終試験に合格することとする。
- ② 上記所定の課程を修了した者には、本大学院学位規則の定めるところにより、博士（歯学）の学位を授与する。

5) 出願資格

- ① 大学において歯学または医学の課程を卒業した者および令和4年3月卒業見込みの者（ただし、医学の課程を卒業した者は、専攻主科目の一部に出願ができないので、事前に確認すること。）
- ② 外国において学校教育における18年の課程を修了し、前号に規定する者
- ③ 本大学院において、大学における歯学または医学の課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- ④ 歯科臨床系を志願する者については、歯科医師臨床研修を修了した者および令和4年3月修了見込みの者

6) 出願受付期間・時間

- I期：2021年8月26日（木）～9月2日（木）
（窓口出願は、午前9時～午後4時。ただし、土・日曜日は除く。）
- II期：2021年11月25日（木）～12月2日（木）
（窓口出願は、午前9時～午後4時。ただし、土・日曜日は除く。）
- III期：2022年2月10日（木）～2月17日（木）
（窓口出願は、午前9時～午後4時。ただし、土・日曜日は除く。）

7) 出願場所

日本歯科大学新潟生命歯学部 教務部・学生部

8) 出願書類

- ① 所定の入学志願書 1部
（注）専攻主科目は、第2希望までを志願することができる。
- ② 顔写真 1葉
（注）脱帽上半身正面、背景なし、縦5cm、横4cm、最近3カ月以内に撮影したもの。
入学志願書の写真欄に貼付すること。
- ③ 出身大学長の調査書
（本学卒業（予定）者、本学歯科医師臨床研修修了（予定）者は不要） 1部
（注）交付先で封緘したものに限る。ただし、調査書が提出できない事情のある場合は、成績証明書を提出すること。
- ④ 大学卒業（見込み）証明書
（本学卒業（予定）者、本学歯科医師臨床研修修了（予定）者は不要。
歯科基礎系を志願する者のみ提出） 1部
- ⑤ 歯科医師臨床研修（在籍証明書）修了登録証の写し（本学歯科医師臨床研修院修了（予定）者は不要） 1部
- ⑥ 戸籍抄本又は外国人登録済証明書（本学卒業（予定）者は不要、本学歯科医師臨床研修修了（予定）者は不要） 1部
- ⑦ 健康診断書
（本学卒業（予定）者、本学歯科医師臨床研修修了（予定）者は不要） 1部
（注）出願前6カ月以内に次の4つの項目について記載した医師の作成による健康診断書（様式は特に定めない）を提出すること。
（1）視力 （2）聴力 （3）結核 （4）その他の疾病・異常

9) 出願方法

所定の書類に入学検定料を添えて、出願場所に提出する。

10) 入学検定料

20,000円

11) 試験科目

科目 \ 区分	I期	II期	III期
小論文（日本語又は英語）	○	○	○
英語	×	×	○
面接	○	○	○

12) 試験期日

区分	月日(曜)	時間	科目
I期	9月7日(火)	午前11時より	小論文
		午後2時より	面接
II期	12月7日(火)	午前11時より	小論文
		午後2時より	面接
III期	2月22日(火)	午前10時より	小論文・英語
		午後2時より	面接

13) 試験場

日本歯科大学新潟生命歯学部

14) 合格者発表

I期：2021年9月9日(木)

II期：2021年12月9日(木)

III期：2022年2月24日(木)

} 午後4時 新潟生命歯学部事務室前掲示板

15) 学生納付金

項目	金額	備考
入学料	200,000円	入学時納付のみ
授業料	550,000円	年度ごと
育英奨学基金負担金	6,500円	入学時納付のみ
学生総合保険料	8,000円	年度ごと
総計	764,500円	入学時納入額

授業料の前・後期(275,000円ずつ)の分納を認める。

16) 入学手続

① 期 間

2022年度4月入学者 2022年3月1日(火)～3月9日(水)
(2022年度10月入学者 別途案内)

② 方 法

学費納入は、銀行振込みとする。

17) 入学時期

I期：2022年4月入学(または10月入学)

II期：2022年4月入学(または10月入学)

III期：2022年4月入学(または10月入学)

18) その他

奨学制度

(1) 日本歯科大学奨学制度

大学院新潟生命歯学研究科の入学生で、奨学金受領希望者に対し、4月入学後に奨学生選抜試験(筆記：英語および教養)を実施し、成績を総合して評価し、上位5名以内に年間500,000円(最長4年間)の返還義務のない奨学金を与える(但し、退学等の場合は、原則返還しなければならない)。

(2) 育英奨学

- ・在学中、不幸にして保護者が死亡したために修学困難になった場合、育英奨学金を支給して、学生の経済的援助を行うことを目的とする。
- ・奨学金は、毎月7万円、年額84万円を支給する。
- ・奨学金は無償とし、返済を必要としない。

(3) 日本学生支援機構

(2021年度実績、2022年度は月額の変更の可能性あり)

第1種(無利子) 月額 80,000円または122,000円

第2種(有利子)

月額 50,000、80,000、100,000、130,000、150,000円から選択

(4) 森田奨学生育英会(無利子)

大学院第4学年より1名。年額360,000円を一括給付。返済不要。

(5) 報酬

診療に従事した場合は一定額の報酬を支給する

主たる研究内容

専攻主科目 (担当教授)	主要研究テーマ
硬組織粘膜比較形態学 (影山幾男 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の人類学 2. 頭頸部の形態形成 3. 顎顔面領域の臨床解剖学
形態分析化学 (辻村麻衣子 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 味蕾の免疫組織化学的研究 2. 歯科インプラント周囲の組織学的研究 3. 口腔領域の外科的処置による組織変化に関する研究
咀嚼分泌神経学 (佐藤義英 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下の中枢性調節機構 2. 口腔感覚の中枢性伝達機構 3. スポーツ歯学における咬合と運動機能との関連
唾液唾液腺機能学 (森田貴雄 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 唾液分泌の分子メカニズムの解明 2. 受容体刺激を介した細胞内シグナル機構の解明 3. 分子イメージングを応用した新規癌治療法の開発
口腔感染免疫学 (葛城啓彰 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病原菌に対する宿主炎症・免疫反応の解析 2. 歯周病原菌および齶蝕関連細胞のアミノペプチダーゼの研究 3. TLR と自然免疫応答機序の解析
口腔環境保健学 (小松崎 明 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域歯科保健活動の効果的実施方法の開発及び評価に関する研究 2. 地域歯科保健の基盤となるデータの構築に関する研究 3. レーザーを用いた咀嚼機能評価法の開発及びその応用に関する研究
口腔材料開発工学 (大熊一夫 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. CAD/CAM による歯科修復物の作製に関する研究 2. 高分子接着材料の疲労に関する研究 3. 支台歯形成の自動化に関する研究
機能性咬合治療学 ()	<ol style="list-style-type: none"> 1. 咬合再構成における構成基準に関する研究 2. 種々の条件が顎頭安定性に及ぼす影響に関する研究 3. 咬合と下顎位が身体運動能力に及ぼす影響
放射線定量診断学 (小椋一朗 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔顎顔面領域における SPECT/CT の有用性 2. マルチモダリティによる薬剤関連顎骨壊死の画像解析 3. 拡散 MRI・超音波エラストグラフィによる口腔癌の定量診断

専攻主科目 (担当教授)	主要研究テーマ
病態組織機構学 (岡田康男 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔癌の成因・増殖・浸潤・転移・診断・治療についての網羅的研究 2. 歯原性嚢胞上皮の腫瘍性性格獲得についての研究 3. 唾液腺癌の悪性度・脈管新生・転移についての研究
硬組織唾液腺薬物反応学 (仲村健二郎 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 唾液腺の分泌機構に関する研究 2. 齶蝕抑制物質の開発研究 3. 副腎髄質カテコールアミン分泌機構
口腔全身機能管理学 (藤井一維 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 局所麻酔薬の局在性に関する研究 2. 精神鎮静法の鎮静の質に関する研究 3. 先取り除痛 (preemptive analgesia) に関する研究
硬組織機能治療学 (新海航一 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. バイオアクティブ接着性修復材料の開発研究 2. 齶蝕予防と進行抑制に関する基礎的研究 3. 歯髄と根尖性歯周組織の創傷治癒および関連細胞の生物特性に関する研究
歯周機能治療学 (佐藤 聡 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周組織の再生に関する研究 2. 歯周組織の臨床的検査の客観的解析手段に関する研究 3. 歯周疾患と全身疾患との相互関連に関する研究
小児口腔行動科学 (黒木淳子 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔疾患発生メカニズムに関する研究 2. 歯の発生及び萌出に関わる因子に関する研究 3. 唾液タンパク質の齶蝕予防に関する研究
咬合形態機能矯正学 (遠藤敏哉 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 矯正治療のバイオメカニクス 2. 不正咬合の早期治療 3. 矯正用接着剤の特性
顎口腔全身関連治療学 (田中 彰 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔癌に対する化学療法感受性判定に関する研究 2. 唾液腺・神経・歯の再生に関する基礎的研究 3. 薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) に関する基礎的ならびに臨床的研究
全身関連臨床検査学 (大越章吾 教授)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査からみた口腔疾患と内科疾患との相互関連に関する研究 2. 睡眠時無呼吸症候群が脂肪肝に及ぼす影響に関する研究 3. 歯髄細胞の分化と再生医療への応用に関する研究